

第 17 回日本在宅医学会もりおか大会 一般・指定演題

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	自施設において在宅看取りを行った独居がん症例に対する在宅緩和ケアの実態調査
演者名	○上林孝豊、田實武弥、小笠原文雄、臼井曜子、小笠原真雄、伊藤正則
所属	小笠原内科

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		5
目的 過去に自施設で在宅看取りを行った独居がん患者に行われていた在宅緩和ケアの実態を調査すること。 方法 当院で訪問診療を行い、平成 19 年 3 月 1 日から平成 26 年 6 月 30 日までの間に在宅看取りまでの在宅緩和ケアを行った独居のがん患者を対象として、患者・家族の背景、在宅診療の転帰、利用したサービス、実施した治療的処置、医療費などを診療録、訪問看護記録などをもとに後ろ向きに調査した。 結果 同期間に在宅緩和ケアを行った独居がん患者は 18 例であった。調査時点で在宅診療継続中であった 1 例、他診療所に在宅緩和ケアの教育を行う目的で副主治医として診療に関わり在宅看取りした 1 例と入院死亡した 1 例は今回の調査から除外し、15 例が対象であった。性別は男 5 名、女 10 名。平均年齢 75.5 歳。独居の分類としては、天涯孤独 2 名、完全独居 4 名、別居家族の支援あり 9 名。在宅診療期間中央値は 53 日、平均の訪問診療回数 24.2 回、平均の往診回数は 3.4 回。在宅診療期間に救急外来受診したものはなし。利用したサービスは、医師、訪問看護師、ケアマネージャー、福祉用具レンタル業者は全例で利用。ホームヘルパー 11 名、自費ヘルパー、ボランティア、近隣・友人や地域の見守りネットワークなどの非公的サービスを利用したものは 11 名、地域包括支援センター、民生委員協議会や社会福祉協議会などの地域の社会福祉関係機関や団体を利用したものは 6 名。死亡前 1 週間のオピオイド使用は有 11 名、無 4 名。死亡前 1 週間のモルヒネ持続皮下注射使用は有 5 名、無 10 名、鎮静剤使用は有 5 名、無 10 名、酸素吸入は有 10 名、無 5 名。在宅診療期間に要した保険請求点数の中央値は 53786 点、一部負担金額の中央値(生活保護者は除く)は 29550 円であった。 考察 独居がん患者の在宅診療を最後まで支えるに際して、生活を支援するさまざまな公的、非公的サービスを積極的に利用していた実態が明らかとなった。		

